

**授業科目**      **微生物学**

【担当教員名】 尾崎 京子	対象学年	3	対象学科	臨床
	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	3	時間数	45

## 【ディプロマポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○	○	○

## 【概要・一般目標 : G10】

- ・微生物の生態について理解する。
- ・微生物が人体に対し疾病を引き起こす仕組みを理解する。

## 【学習目標・行動目標 : SBO】

1. 感染症の原因となる病原体の種類をあげ、系統立てて分類する。
2. 微生物に対する生体の防御システムについて概説する。
3. 感染と発症および感染源と感染経路について概説する。
4. 抗菌薬の種類および薬剤感受性検査と薬剤耐性菌について述べる。
5. 感染症予防対策について説明する。
6. バイオハザード対策の基本について説明する。
7. 代表的病原微生物の種名をあげ、それぞれの性状の特徴と引き起こされる疾病について列挙する。
8. 微生物検査の基本操作を述べる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	微生物学総論 微生物学の歴史、微生物の分類	1	講義
2	微生物学総論 細菌の形態と構造	7, 8	講義
3	微生物学総論 細菌の観察法と培養法	7, 8	講義
4	微生物学総論 他の微生物、正常細菌叢	7, 8	講義
5	微生物学総論 病原性と抵抗力	2, 3	講義
6	微生物学総論 滅菌と消毒	5, 6	講義
7, 8	微生物学総論 化学療法とワクチン	3, 4	講義
9	微生物学総論 現在の感染症の特徴	3, 5	講義
10	微生物学総論 バイオハザードと感染症法	5, 6	講義
11	細菌学各論 グラム陽性球菌	7, 8	講義
12	細菌学各論 グラム陰性球菌	7, 8	講義
13, 14	細菌学各論 グラム陰性通性嫌気性菌、ビブリオ、エロモナス	7, 8	講義
15, 16	細菌学各論 グラム陰性好気性桿菌、微好気性らせん菌	7, 8	講義
17	細菌学各論 グラム陽性好気性桿菌、抗酸菌	7, 8	講義
18	細菌学各論 偏性嫌気性菌	7, 8	講義
19	細菌学各論 スピロヘータ、レプトスピラ、マイコプラズマ、リケッチャ、クラミジア	7, 8	講義
20	病原真菌学、ウイルス学	7, 8	講義
21, 22	微生物学検査法	8	講義
23	薬剤感受性検査法	4, 8	講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	臨床検査講座 微生物学 / 臨床微生物学	岡田 淳 他	医歯薬出版	2012・5,800円+税
参考書	臨床微生物検査 ハンドブック メディカルサイエンス 微生物検査学	小栗豊子 大田敏子、金森政人、山口博之 他	三輪書店 近代出版	2011・5,000円+税 2010・5,500円+税
その他の資料				

## 【評価方法】

- ・小テスト : 20% 前期授業内に数回行う。授業欠席の場合は小テストは0点とする。
- ・定期試験 : 80%

## 【履修上の留意点】

講義は教科書を中心に行います。新しい用語、菌名が多数出てきます。覚えなければならない内容は非常に多いので、講義に集中して下さい。私語や居眠り、欠席は固く禁じます。菌名は学名で覚えなければなりませんので、手書き練習を繰り返して下さい。毎回の復習は非常に大切ですので、欠かさずしっかりと行って下さい。参考書など数冊図書館に配備してありますので、有効に活用して下さい。後期の実習とあわせ理解を深め、知識と技能を確実に身につけてください。